

2021年12月17日
株式会社電通デジタル

電通デジタル、「Epica Awards 2021」の 2部門でブロンズ受賞

株式会社電通デジタル（本社：東京都港区 代表取締役社長執行役員：川上 宗一 以下、電通デジタル）は、世界の広告業界誌のジャーナリストが評価する広告賞「Epica Awards 2021」において、株式会社電通（本社：東京都港区 代表取締役社長執行役員：五十嵐 博）、株式会社電通ライブ（本社：東京都千代田区 代表取締役社長執行役員：高木 正彦）と共同制作した『"名画になった"海 展』（クライアント：株式会社横浜八景島）が、「Creative Use of Data」部門と「Experiential & Shopper Marketing」部門において、ブロンズを受賞しました。



〈受賞クリエイティブ〉「"名画になった"海 展」

 **The Ocean: Future Masterpieces**

The exhibition that visualized the sea with plastic waste in 2050 using AI painting.

Challenge
Plastic pollution in our oceans is a global problem. By 2050, the volume of plastic waste in our oceans is expected to exceed the volume of fish. Sendai Umino-Mori Aquarium, an aquarium with the theme of symbiosis with nature, holds a special exhibition "The Ocean: Future Masterpieces". It appeals to public opinion the seriousness of this problem from Sendai bordering the Pacific Ocean.

Idea
By utilizing an aquarium, we aimed to create an opportunity for visitors to be surprised and realized by visualizing this problem through paintings that everyone feels close to. We first selected seven of the most famous painting in the world depicting the beauty of the ocean. Then, we used AI to estimate the volume of plastic waste in our oceans in the year 2050. Finally, we had an AI study the seven works – as well as the simulation results – and recreate every painting as if produced in the year 2050. Then, we displayed the works at the Sendai Umino-Mori Aquarium.

Results
30,000+ visitors in 10 days

"This is not about the distant future. We hope the exhibition will give visitors food for thought." - JIRO SAKAMOTO, CEO

"Please me want to review our relationship to the oceans." - "I hope Mr. Laiwan will never have to paint such a picture."

The exhibition has been featured in many media, and about 30,000 people visited in 10 days. We're planning to have a traveling exhibition overseas. Inspired by the success of this exhibition – one of the original works' artists – exhibited this painting at his own exhibition, keeping the project in the public's consciousness even after the exhibition ended.

 **仙台うみの杜水族館**

Exhibition Brochure

「Epica Awards」は1987年に設立された、世界の広告業界誌のジャーナリストが評価する点が特徴的な、フランス発の国際的な広告賞です。35回目となる今年は64カ国から3,184作品の応募があり、12月9、10日に受賞発表が行われました。

■受賞作品について

クライアント：株式会社横浜八景島

クリエーティブについて：プラスチックごみによる海洋汚染の深刻さを発信するため、「2050年に海洋プラスチックごみの量は魚の量を超える」という予測データ^{※1}に基づき、実際のプラスチックゴミの画像をAI（人工知能）を用いて、世界中の「海」が描かれた名画の画家のタッチに変換し、2050年版を作成しました。未来の海を絵画という形で表現し、2019年7月に仙台うみの杜水族館にて美術展「"名画になった"海 展」を開催しました。

本作品では、電通デジタルのデータ/AIとクリエーティビティの融合を目指したクリエーティブチーム「アドバンストクリエーティブセンター」が参画しています。

今後も電通デジタルは、生活者のインサイトを徹底的に深堀し、最先端のテクノロジーとクリエーティブ手法を活用し、人の心とモノを動かすクリエーティブを提供してまいります。

※1 「The New Plastics Economy Rethinking the future of plastics」（世界経済フォーラムおよびエレン・マッカーサー財団による報告）http://www3.weforum.org/docs/WEF_The_New_Plastics_Economy.pdf

以上

＜電通デジタルについて＞<https://www.dentsudigital.co.jp/>

国内最大規模のデジタルマーケティング会社として、データとテクノロジーを駆使した次世代マーケティングの戦略策定・実行、その基盤となるITプラットフォームの設計・構築、クライアントの事業革新を支援するDXコンサルティングなどのサービスを提供。国内外のプラットフォーム各社との緊密なパートナーシップのもと、高度な専門性と統合力により、クライアントの事業成長に貢献しています。

＜アドバンストクリエーティブセンターについて＞<https://advancedcreativecenter.com/>

データ/AI（人工知能）とクリエーティビティの融合した「アドバンストクリエーティブ」の実現を目指し、2017年、電通デジタルに発足したクリエーティブ組織です。認知度や好意度を向上させるブランドリフト広告から、顧客獲得のためのダイレクトレスポンス広告（バナー/LP/オンライン動画/ソーシャル広告）までを統合的に設計・制作し、広告配信の成果に合わせて改善のためのPDCAを行っています。広告の第一線で活躍するクリエーティブディレクター、コピーライター、アートディレクターや、ダイレクトレスポンス広告に関する知見・ノウハウを有するコンサルタントやディレクターなど、多数のスペシャリストが在籍しています。

【本リリースに関する問い合わせ先】

株式会社電通デジタル コーポレートコミュニケーション部

竜野・宮本 TEL: 03-6217-6036 Email: press@dentsudigital.co.jp